

ハスモンヨトウ情報第2号

平成24年9月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 発生状況

- (1) ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、尾張地域および西三河地域ではおおむね平年並からやや少なく推移しています。一方、豊橋市では平年よりやや多く推移するなど、地域によってばらつきがあります(図1)。
- (2) 8月下旬のダイズにおける被害株率は、西三河地域の一部で高いほ場があるものの、全体的には平年よりやや少ない状況です。
- (3) 8月下旬のキャベツほ場におけるハスモンヨトウ幼虫の寄生株率は、平年並です。

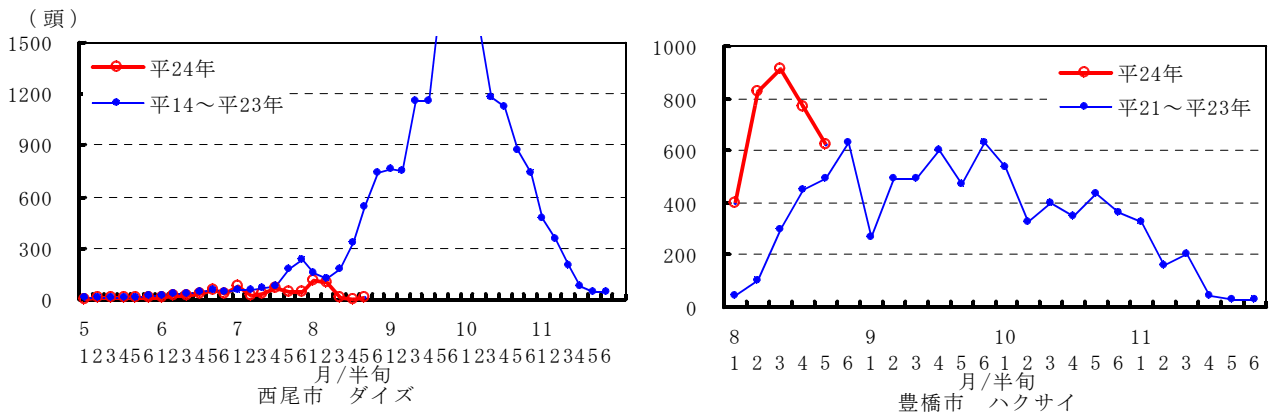


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数

2 防除対策

- (1) ハスモンヨトウは残暑が厳しく降雨の少ない年に多発する傾向があります。気象予報によれば9月は気温が高いと予想されており、今後急増する可能性があるため、早めの防除を心がけましょう。
- (2) 中齢以降の幼虫(図2)は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、若齢幼虫期(分散前)(図3)に防除しましょう。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の薬剤を連用しないようにしましょう。(表)。
- (4) ダイズほ場で白変葉が目立つ場合は、直ちに防除しましょう。
- (5) イチゴでは、新芽の部分を好んで食入し見つけにくいので、新芽の部分を開いて寄生を確認しましょう。
- (6) 農薬の散布にあたっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。



図2 ハスモンヨトウ中齢、老齢幼虫



図3 分散前のハスモンヨトウ若齢幼虫

表 ハスモンヨトウの主な防除薬剤

| 作物名 | 薬剤名 | 薬剤の系統(注) |
|------|-------------|----------|
| ダイズ | ロムダンフロアブル | a |
| | ラービンフロアブル | b |
| | トレボンEW | d |
| | プレバソンフロアブル5 | k |
| | マッチ乳剤 | c |
| | トルネードフロアブル | e |
| | マトリックフロアブル | a |
| キャベツ | マッチ乳剤 | c |
| | プレオフロアブル | g |
| | トルネードフロアブル | e |
| | アフーム乳剤 | f |
| | フェニックス顆粒水和剤 | i |
| | プレバソンフロアブル5 | k |
| | コテツフロアブル | h |
| ハクサイ | アタブロン乳剤 | c |
| | ラービンフロアブル | b |
| | アニキ乳剤 | f |
| | フェニックス顆粒水和剤 | i |
| | プレバソンフロアブル5 | k |
| イチゴ | ラービンフロアブル | b |
| | プレオフロアブル | g |
| | カスケード乳剤 | c |
| | コテツフロアブル | h |
| | トルネードフロアブル | e |
| | アフーム乳剤 | f |
| | プレバソンフロアブル5 | k |
| キク | ゼンターリ顆粒水和剤 | j |
| | アニキ乳剤 | f |
| | マトリックフロアブル | a |
| | フェニックス顆粒水和剤 | i |
| | プレバソンフロアブル5 | k |

注) 薬剤の系統 : a= I G R 剤 (脱皮促進)、b=カーバメート系、c= I G R 剤 (脱皮阻害)、d=ピレスロイド系、e=オキサダイアジン系、f=マクロライド系、g=プロペニルオキシフェニル系、h=ピロール系、i=ベンゼンジカルボキサミド系、j= B T 剤、k=ピラゾール系